

12月になりました。このところ朝夕寒い日が多くなり冬の季節を感じるようになりました。冷たい空気を頬に受けながら、休みの日には自分のなまった体のリハビリのために家の周りを散歩するようにしています。すぐ家の裏を流れる由良川に、カモ、ウミウやオオバンなどの渡り鳥の姿が多くなってきたのがわかります。去年は羽合小学校の子どもたちが目撃したという、学校の近くの田んぼにもやってくる幸せを運ぶ鳥、コウノトリを今年こそ自分の目で見たいと思います。

自分で決める どういう自分になりたいか 何がしたいか

令和4年度の体育の研究発表会に向けた取組の一つとして、今年はこれまで3回トップアスリートを羽合小学校にお招きしスポーツ教室を開催しました。運動することの楽しさや、スポーツだけでなく自分の好きなことに一生懸命取り組むことの大切さを、サッカーガイナールの内間さん、空手家の宇佐美さん、縄跳びの三村先生から、子どもたちはたくさんのことを学び感じてくれたことと思います。運動することの楽しさやスポーツのすばらしさを学ぶことを目的として企画したスポーツ教室でしたが、講師の方たちからこれから自分はどう生きていけばよいのかを学ぶ機会になったように思います。

講師にお招きした方に共通していたことが、「自分はどのような自分になりたいのか、何が本当にしたいのか」を考え、「自分で決める」ことが大事だということ、それが苦しくてもがんばれるモチベーションになったということだったように思います。

自分で決めるということは、大人でもそうですが、子どもたちでも日常でたくさん迫られることです。「どっちが欲しいの」「何時になったら起きるの」「いつ宿題をするの」「家でゲームをしていい時間を決めなさい」「あなたはどのスポ少に入って運動をやりたいの」とか。でも親からこうしなさいと言われたからする子より、自分で決めた子のほうがはるかに長続きします。それは自分で決めたからです。自分が決めたからには頑張ろうと子どもは思うからです。

やる気になったことって保護者の皆さんにもおありだと思います。中学や高校の部活動や自分の将来の夢に向かって努力したことなど、それこそドラマなような道のりがあったのではないかと思います。

どういう自分になりたいか、何がしたいかを考えることは、まだ小学生の子どもたちには少し難しいことかもしれません。まだまだ先の進路選択のことのように思いがちです。しかし、今の自分でいいのか、どういう自分になりたいかを考えられる子どもになってほしいと思っています。

自主性を尊重するのと、放任とは違います。自分で決めろと言われても、その判断する材料は子どもにはありません。こどもの自主性は尊重してもアドバイスは十分与える、そういう関係が子どもを伸ばすのではないかと思います。

子どもたちにはこれからの変化の激しい社会の中で、自分の夢に向かって大きく羽ばたき幸せをつかんでほしいと願っています。



コウノトリ